令和５年度第２回柏市健康福祉審議会地域健康福祉専門分科会会議録

１　開催日時
　令和６年２月２２日（木）午前１０時～午前１１時３０分

２　開催場所
　ラコルタ柏　４階　集会室

３　出席者
⑴ 委員（５人）
　中川委員（会長），山名委員（副会長），阿部委員，岡田委員，堀田委員
⑵ 関係部署（１３人）
　谷口福祉部長，渡邊福祉部次長兼指導監査課長，矢部生活支援課長，天玉障害福祉課主査，高橋健康医療部長，宮本健康医療部次長兼高齢者支援課長，大西健康政策課長，恒岡地域包括支援課長，磯村地域保健課副主幹，中森健康増進課主幹，渡会子育て支援課長，柏市社会福祉協議会原次長，柏市社会福祉協議会富樫総務課長，
⑶ 事務局（４人）
　虻川福祉政策課長，髙橋福祉政策課主幹，泉田福祉政策課主査，品地福祉政策課主事

４　議題
⑴ 柏市重層的支援体制整備事業（かしまる）の進捗状況について
⑵ 第５期柏市地域健康福祉計画策定について
⑶ その他

５　議事（要旨）
議題「⑴ 柏市重層的支援体制整備事業（かしまる）の進捗状況について」
・資料３－１に沿って進捗状況を泉田福祉政策課主査から説明
［質疑応答］
・多機関協働事業について、医療のかかわりが必要なケースは１７件中どの程度か。（岡田委員）
→１７件の内医療が必要なものは資料がないので後ほど回答する。精神疾患の方のケースも見受けられるので、医療にかかっている、またはかかりたくないと考えていらっしゃる方もいる（事務局）

・ＡＩチャットについて、教育委員会等のかかわりはあるか。（岡田委員）
→８月から開始した実証実験では、小中高生の利用が６割となったが、想定していなかった利用者の状況であった。現在は学校教育部と連携を取っている。ギガスクール関係で、

いじめを匿名で報告・相談できるＳＴＡＮＤＢＹ（スタンドバイ）というアプリを利用している。こちらは一人一人の悩みに対して先生が対応中である。ＡＩチャットは４月から本格始動となるので、連携について定期的に打ち合わせをしている状況。（事務局）
→御意見：子どもたちにどのように周知するかが課題。（岡田委員）
→御意見：いかに情報を周知していくかは課題。知恵を出し合って、窓口や取り組みなどを伝えていくことが必要。学校を使うなども考えられる。（中川委員）

・御意見： ＡＩチャットは年齢が高い方には敷居が高い。そういった方にも使ってもらう手立てを考える必要がある。（阿部委員）

・御意見：柏市でも高齢者が３割近く住んでいる中で、窓口に自ら意欲的に来庁するということは少ない。案内者は家族や近所の人が多いため、施策の窓口へ結びつく流れを考える必要がある。認知度を上げることが大切。（阿部委員）

・多機関協働事業の具体的な事例の件数は１７件だが、資料にある２件以外のケースの内容を具体的に知りたい。（堀田委員）
→世帯で問題を抱えているケースが多い印象となっている。母が病で、母子家庭のため子がヤングケアラーとなっている状況や、母が精神疾患、父も精神疾患と疑われる状態、ひきこもり等。（事務局）

・ＡＩチャットは年齢層によってとらえ方が違う。どういう立場で相談する人を受け付けるのか、周知の際に知らせてもらえると良い。（堀田委員）
→高齢者にはまだ届いていない印象がある。実証実験時は、柏市のＨＰ上での周知のみにも関わらず相談が多数あった。そのため、総合相談の中にこの機能を入れて周知しくことを検討している。対面で話すべきところは残し、傾聴を希望される部分についてはＡＩチャットを利用できればと考えている。周知の仕方は今後も検討していく。（事務局）

・ＡＩチャットの周知で「待ち時間ゼロでどんな悩みも受ける」とあるが、悩みの絞り込みが必要なのか、なんでも受けていく形なのか確認したい。（岡田委員）
→現状ではどんな悩みも受けていく予定である。ＡＩが答えるため件数を絞らない予定。まずは誰かに何かを話すことで、心が軽くなることを狙っていきたい。
今の段階ではＡＩは傾聴のみでアドバイスは行わない。満足度は高く、ＡＩだから話せた、良かったという意見もある。（事務局）

・高齢者が一番欲しいものを町会で聞いた際には、話し相手や安心な雰囲気が欲しいという意見であった。高齢者がチャットにつながるようになれば、最初の会話が欲しいという方には効果があると感じた。（阿部委員）
→若年層の利用が多いことに驚いた。高齢の方が一時的に話をする場としての利用についての視点を参考にさせていただき周知検討できればと考える。（事務局）

議題「(2)第５期柏市地域健康福祉計画策定について」
・資料３－２に沿って品地福祉政策課主事から説明
［質疑応答］
・御意見：ワークショップについて、広く市民から聞くというのは良いことなので今後も継続が良いが、あくまで参考の一つの意見として受け止めることが大切。発言者の属性によっても異なるので、中身は慎重に精査して欲しい。（中川委員）

・審議会は公開もされているが、連携会議については内容がわからないのでわかるように注釈があると良い。（堀田委員）
→連携会議についてはネットワークの構築を庁内で推進していくために会議体を設けている。共生社会を実現する為に何ができるかを検討する会議となっている。注釈については次回資料で触れる。（事務局）

・庁内ヒアリングについて、職員の意見内容の説明がほしい。（堀田委員）
→ヒアリングでは、各課より地域健康福祉に関する自分の課の強みや弱み、地域福祉に関して自分の課が発揮できる部分等を聞き取る形で実施した。地域健康福祉に関する課の課題や要望をヒアリングする中で、職員の人材不足の悩みや、どこまで支援して良いかのバランスが難しい等の意見が出た。様々な意見が出たがそれが全てではないため、ヒアリング結果も踏まえながら計画を検討していく。（事務局）

・アンケート結果について、単位が判然としないものがある。（堀田委員）
→次回以降より注意して掲載する。（事務局）

・アンケート結果報告の中で、「障害者・高齢者や子育てをしている方にとって安心して生活できる環境だと思うか？」という設問があるが、障害者、高齢者、子育てをしている方それぞれの数字を知りたい。また、年齢別で知りたい。（岡田委員）
→それぞれの属性については、該当する各部門がそれぞれアンケート等を取っている状況。今回のアンケートでは、地域福祉という俯瞰視点で問いを大きくとっている状態。年齢別については速報値に示しているが、クロス集計等も用いながら今後公表していきたい。（事務局）

・アンケート結果については周知されるか。（阿部委員）
→次回審議会の時にご報告を予定している。また、ＨＰでも公開する。（事務局）

・地域社会の担い手不足は切実。人がいたとしても、うまく顔を出していただくことができていない。この状況を改善するための施策としてのヒントがあると良い。（阿部委員）
→担い手不足の現状は認識しているため、地域づくりや参加支援の事業で活動できるプレーヤーを育成していければと考えている。また、ワークショップではカードを用いて Yes、No で答える必要があったが、そもそもどちらかを答えられない、地域のことを知らない

という感想が複数挙がった。これから地域に目を向けていきたい等の意見もあった。こういった取り組みを継続することで、プレーヤーを増やしていければと考えている。（事務局）
→御意見：地域を含めて、既存の組織の存続が難しくなっている。ＰＴＡがなかったり、仕組みが変わったりしていることもある。担い手の問題を考えるときには、従来の組織の在り方が若い方に受け入れられていないかもしれないという視点も必要。（阿部委員）

・無理なところは民間業者に頼むことも必要。担い手不足、組織の存続が危ぶまれる中で、委託に対しての市の意見も盛り込んでいければ良いのではないか。（岡田委員）
→民間委託については、窓口業務で民間事業者へのアウトソーシングが進んでいる状態。行政で行っている内容も民間委託するものなのか、職員そのものがやるべきものなのかを整理している時期となっている。一方で、デジタル化も行政、事業にどう組み込んでいくのかという視点も必要。ＡＩチャット導入についても、本来なら人間が丁寧に聞く方が良いのではという意見もある。委託等については試行しながら進めていければと思うので、方針として入れられるかも含めて検討したい。（谷口福祉部長）

・御意見：民生委員は欠員が多い。保護者が共働きで、ＰＴＡや子供会も仕事で出られない家庭が多い。存続については地域が関係しないと難しい。組織の改革が必要ではないか。これからは地域のつながり、多世代につながっていくことが大切。地域のイベントに参加してくれる若い方に声をかけてつながりを作り、地域に興味を持ってもらえるように関係を作っていきたい。時代が違う、仕方がないだけではなく、どうつないでいくかも考えていくのが大事ではないか。市民と行政がつながる、市民同士がつながることが共に重要である。（山名委員）

議題「(3)その他」
・岡田委員からの質問へ事務局より回答：１７ケースの内、医療につながっているケースは精神疾患・身体疾患を合わせて７件。このほか、現在医療とつながってはいないが、支援をしている中でつなぐ必要があると見受けられるケースも存在する（事務局）
・次回分科会の開催日程について泉田福祉政策課主査より説明

［御意見］
・地域の中で、健康づくりの相談員や民生委員などの入れ替えが負担になる作業になっている。町会自治会が推薦するが、特に民生委員は推薦したい方と委員となりたい方が別なケースも存在する。各種団体があるので、すそ野を広げた推薦の仕組みを考えることや、組織自体の数と人員の削減も検討する必要があるのではないか。（阿部委員）
・審議会に出させてもらい勉強になった。行政の苦労もわかり、地域のボランティアとしても、地域と行政の連携が大事だと思った。諦めず継続していくことが大事と他の民生委員に伝えているが、今後も連携してやっていければと思う。（山名委員）